



## 2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月15日

上場会社名 株式会社マーケットエンタープライズ 上場取引所 東  
 コード番号 3135 URL <http://www.marketenterprise.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 泰士  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 今村 健一 (TEL) 03-5159-4060  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年6月期第3四半期の連結業績(2022年7月1日~2023年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	11,163	30.8	39	—	89	—	△106	—
2022年6月期第3四半期	8,532	5.1	△223	—	△240	—	△213	—

(注) 包括利益 2023年6月期第3四半期 △49百万円(—%) 2022年6月期第3四半期 △176百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	△20.01	—
2022年6月期第3四半期	△40.34	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	4,317	1,257	22.0
2022年6月期	3,531	1,296	29.7

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 950百万円 2022年6月期 1,050百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年6月期	—	0.00	—		
2023年6月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

連結業績予想に関する序文

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	25.1	300	—	275	—	167	—	31.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年6月期3Q	5,324,000株	2022年6月期	5,304,800株
② 期末自己株式数	2023年6月期3Q	395株	2022年6月期	349株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年6月期3Q	5,322,105株	2022年6月期3Q	5,295,917株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## ① 当四半期連結累計期間における経済情勢と当社グループの事業概要

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限が緩和され、経済活動の持ち直しが期待される一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰や円安進行による物価の上昇等により、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

個人消費につきましては、急激な物価高を背景に、従前にも増して節約や低価格志向が根強くなりながらもその動向は必ずしも節約・低価格の一辺倒なものではなく、個人の価値観や嗜好性に応じたメリハリのある消費スタイルが浸透し、特にインターネットを介した消費行動においてその傾向は顕著であります。そのような社会環境下、当社グループは多様化する消費行動や賢い消費を求める消費者に対し、その人にとって最適な消費の選択肢を提供する「最適化商社」を目指し、昨今の世界的な潮流であるSDGsの実現に向けた経済活動であるサーキュラーエコノミー（循環型経済）の発展の一翼を担うべくその実現に向けた事業を展開しております。

## ② 当四半期連結累計期間における業績の状況

当社グループは「持続可能な社会を実現する最適化商社」をビジョンに掲げ、多様化する消費行動や様々な消費スタイルに対し、個々人そして一部の商品・サービスにおいては事業者や法人にまでその枠を広げ、インターネットを通じて最適な消費の選択肢を提供するべく事業を推進しております。

当社グループは2024年6月期を最終年度として売上高200億円、営業利益12億円を目標とする3カ年の中期経営計画を公表しており、その中間年度となる当期（2023年6月期）は、前期に引き続き中期的な収益基盤の構築に向けた投資を継続することに加え、売上規模の拡大及び収益性の改善を計画しております。その実現に向け、当第3四半期連結累計期間に行った取組の内容は以下のとおりであります。

報告セグメント	取組の内容
ネット型リユース事業	(個人向けリユース分野) ・商圏拡大に向けた千葉リユースセンターの新規開設（2022年10月） ・出張買取数の増加に向けた出張買取人員、車両の増強 ・出張買取におけるコンサルティング営業の本格化 (農機具分野) ・輸出量の増加に向けた更なる海外販路の拡充 ・前期第4四半期に株式会社ファーマリーから譲り受けた中古農機具・販売事業における国内法人との取引規模の拡大 ・収益性の向上に向けた買取価格査定システムの見直し (おいくら分野) ・リユースプラットフォームとしての収益基盤の拡充に向けたシステム投資 ・官民一体でのSDGsの実現（不要品の二次流通促進による廃棄物の削減及び環境負荷軽減）に向けた地方自治体との連携
メディア事業	・検索エンジンアルゴリズムのアップデートに対応した掲載記事のメンテナンス ・送客対象となる商品・サービスの領域拡大
モバイル通信事業	・ニーズにマッチした新プランの拡充による新規回線契約獲得 ・4G→5Gへの契約変更訴求によるユーザーの回線契約期間の長期化

これらの取組の結果、売上高は11,163,154千円（前年同期比30.8%増）、営業利益は39,607千円（前年同期は223,558千円の損失）、経常利益は89,267千円（前年同期は240,176千円の損失）となりました。また、税金費用の増加により親会社株主に帰属する四半期純損失は106,512千円（前年同期は213,627千円の損失）となり、概ね想定どおりの推移となりました。

## ③ 報告セグメントの状況

## ・ネット型リユース事業

当セグメントでは、販売店舗を有せずインターネットに特化したリユース品の買取及び販売に関するサービスを展開しており、当社グループの基幹事業であります。

買取においては「高く売れるドットコム」を総合買取サイトの基軸とし、商品カテゴリ別に分類された複数の買取サイトを自社で運営しております。販売において「ヤフオク!」はじめ、「楽天市場」、「Amazon」、自社ECサイト「ReRe（リリ）」など複数サイトへ同時出品し、インターネットを通じて商品を販売しております。主に「大型」「高額」「大量」といった、CtoC（個人間取引）では梱包や発送が難しい商品を取扱い、CtoBtoCというプロセスで当社が取引に介入することで、品質担保をはじめ、リユース品の売買に対して顧客に安心感を提供しております。近年ではこれらで培ったナレッジ・ノウハウを元に農機具分野へ参入し、国内のみならず農機具輸出事業を展開するなど、既存事業とのシナジーを活かして事業の多角化に努めております。また、リユースプラットフォーム「おいくら」（全国のリサイクルショップが加盟し、売り手である一般消費者と買い手であるリサイクルショップをマッチングするインターネットプラットフォーム）の基盤拡充に向けた施策を行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、旺盛な買取ニーズに対応し更なる商圏拡大を行うべく、2022年10月に新規拠点（千葉リユースセンター）を開設いたしました。また、個人向けリユース分野において、商品買取に関する出張買取バイヤーの採用及び教育研修、車両等の増強を行いました。それらの投資により各種リソースが徐々に拡充したことに伴い、出張買取におけるコンサルティング営業を本格化させたことで、商品の取扱量が増加いたしました。農機具分野につきましては、2022年4月に譲り受けた株式会社ファーマリーの中古農機具買取・販売事業とのシナジーにより国内法人との取引量が増加いたしました。また、今後の収益性の向上に向けてより精度の高い買取価格の査定を行うべく、買取価格査定システムの見直しを行っております。「おいくら」については、リユースプラットフォームとしての中長期的な収益基盤拡充に向けたシステム投資や官民協働でのSDGsの実現（不要品の二次流通促進による廃棄物の削減及び環境負荷軽減）に向けた地方自治体との連携を推進し、その連携数は2023年3月末日現在で、34自治体（前四半期比18自治体の増加）に至りました。

これらの結果、売上高は6,137,482千円（前年同期比29.7%増）、セグメント利益は217,194千円（前年同期比171.9%増）となりました。

## ・メディア事業

当セグメントでは、賢い消費を求める消費者に対し、その消費行動に資する有益な情報をインターネットメディアで提供するサービスを展開しており、以下の8つのメディアを運営しております。

- ・モバイル通信に関するメディア : 「iPhone格安SIM通信」「SIMCHANGE」
- ・モノの売却や処分に関するメディア : 「高く売れるドットコムMAGAZINE」「おいくらMAGAZINE」
- ・モノの購入に関するメディア : 「ビギナーズ」「OUTLET JAPAN」
- ・モノの修理に関するメディア : 「最安修理ドットコム」
- ・中古農機具の買取・販売プラットフォーム : 「中古農機市場UMM」

当第3四半期連結累計期間におきましては、検索エンジンアルゴリズムのアップデートに対応した既存掲載記事のメンテナンスや送客対象となる商品・サービスの領域拡大を行ったこと等により、前四半期に引き続き収益性の高いキーワードにおける検索ランキングがほぼ想定どおりに推移いたしました。結果として主力分野であるモバイル通信に関するメディアは概ね堅調に推移し、その他分野（趣味、インターネットサービス等）に関するメディアのページビュー数、送客収入は大きく成長いたしました。また、持続的な事業規模の拡大に向けて、新たな領域へのメディア展開を試行いたしました。

これらの事業展開が奏功し、収益基盤の多様化が図られたことで売上高は574,196千円（前年同期比38.1%増）、セグメント利益は330,132千円（前年同期比38.0%増）となりました。

## ・モバイル通信事業

当セグメントでは、連結子会社の株式会社MEモバイルが、通信費の削減に資する低価格かつシンプルで分かりやすい通信サービスを展開しており、主力サービスとして、「カシモ（＝”賢いモバイル”の略称）」というブラ

ンド名のもと、主にモバイルデータ通信のサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、メディア事業との連携強化により自社通信メディアからの送客が堅調に推移したことに加え、他社が運営するメディアへの積極露出を行ったことから新規回線獲得数が増加いたしました。また、既存契約回線(4G)の契約期間が満了するユーザーに対し、後続となる5G回線への変更を訴求することで、1ユーザー当たりの契約期間延長を図りました。なお、将来的に見込まれるストック収益が当初想定を上回る推移をしたことにより、当第3四半期において当期における収益性を意識した収益プランを実行しております。

これらの結果、売上高は4,542,722千円(前年同期比31.6%増)、セグメント利益267,349千円(前年同期比104.7%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産については、前連結会計年度末に比べて785,748千円増加し、4,317,130千円となりました。これは主に、売掛金の増加155,779千円や商品の増加131,683千円、投資その他の資産の増加255,215千円及び現金及び預金の増加343,431千円があったことによるものであります。

### ② 負債

当第3四半期連結会計期間末の負債については、前連結会計年度末に比べて824,406千円増加し、3,059,697千円となりました。これは主に、短期借入金の増加801,000千円や買掛金の増加113,663千円、未払金の増加28,963千円及び未払法人税等の増加38,645千円があった一方で、1年内返済予定の長期借入金の減少54,500千円や長期借入金の減少132,904千円があったことによるものであります。

### ③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産については、前連結会計年度末に比べて38,658千円減少し、1,257,433千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失106,512千円の計上によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本書類と同時に公表した「投資有価証券売却に伴う特別利益の計上見込みに関するお知らせ」に記載のとおり、今後におきましては特別利益の発生が見込まれております。当該影響を踏まえた2023年6月期通期の連結業績予想につきましては、他の要因も含め現在精査中であり、業績予想の修正が必要な場合には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	941,696	1,285,127
売掛金	971,026	1,126,806
商品	439,020	570,704
貸倒引当金	-	△15,638
その他	189,331	145,532
流動資産合計	2,541,074	3,112,532
固定資産		
有形固定資産	365,858	392,060
無形固定資産		
のれん	171,685	115,403
その他	44,095	33,249
無形固定資産合計	215,781	148,653
投資その他の資産	408,667	663,883
固定資産合計	990,307	1,204,597
資産合計	3,531,382	4,317,130
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	366,179	479,843
短期借入金	800,000	1,601,000
1年内返済予定の長期借入金	247,656	193,156
未払金	282,308	311,272
リース債務	15,462	15,824
未払法人税等	46,044	84,689
賞与引当金	-	37,709
その他	300,807	285,216
流動負債合計	2,058,458	3,008,712
固定負債		
長期借入金	147,472	14,568
リース債務	14,288	36,224
その他	15,071	191
固定負債合計	176,832	50,984
負債合計	2,235,290	3,059,697
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	325,937	331,339
資本剰余金	305,577	310,979
利益剰余金	406,710	300,766
自己株式	△530	△582
株主資本合計	1,037,694	942,503
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	12,322	7,518
その他の包括利益累計額合計	12,322	7,518
新株予約権	1,040	928
非支配株主持分	245,033	306,482
純資産合計	1,296,091	1,257,433
負債純資産合計	3,531,382	4,317,130

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2023年3月31日)
売上高	8,532,842	11,163,154
売上原価	5,501,046	7,011,172
売上総利益	3,031,795	4,151,982
販売費及び一般管理費	3,255,354	4,112,375
営業利益又は営業損失(△)	△223,558	39,607
営業外収益		
保険配当金	195	260
助成金収入	4,746	2,405
自販機収入	416	308
デリバティブ評価益	-	87,900
スクラップ売却益	3,105	2,458
その他	1,380	2,322
営業外収益合計	9,844	95,655
営業外費用		
支払利息	4,483	10,636
為替差損	490	7,290
支払手数料	21,148	27,139
その他	340	929
営業外費用合計	26,462	45,995
経常利益又は経常損失(△)	△240,176	89,267
特別利益		
固定資産売却益	-	1,124
特別利益合計	-	1,124
特別損失		
固定資産除却損	7,798	0
特別損失合計	7,798	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△247,975	90,391
法人税、住民税及び事業税	52,702	103,861
法人税等調整額	△116,892	31,594
法人税等合計	△64,189	135,455
四半期純損失(△)	△183,786	△45,063
非支配株主に帰属する四半期純利益	29,841	61,448
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△213,627	△106,512



## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
四半期純損失(△)	△183,786	△45,063
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	7,014	△4,803
その他の包括利益合計	7,014	△4,803
四半期包括利益	△176,771	△49,867
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△206,612	△111,315
非支配株主に係る四半期包括利益	29,841	61,448

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,731,566	349,817	3,451,458	8,532,842	—	8,532,842
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	65,822	—	65,822	△65,822	—
計	4,731,566	415,639	3,451,458	8,598,664	△65,822	8,532,842
セグメント利益 又は損失(△)	79,876	239,179	130,587	449,643	△673,201	△223,558

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△673,201千円には、セグメント間取引消去60,368千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△733,570千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,137,482	482,949	4,542,722	11,163,154	—	11,163,154
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	91,247	—	91,247	△91,247	—
計	6,137,482	574,196	4,542,722	11,254,401	△91,247	11,163,154
セグメント利益	217,194	330,132	267,349	814,675	△775,068	39,607

(注) 1. セグメント利益の調整額△775,068千円には、セグメント間取引消去78,975千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△854,043千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計
総合リユース	3,853,948	—	—	3,853,948
マシナリー(農機具・建機)	877,618	—	—	877,618
成果報酬型広告収入	—	349,817	—	349,817
通信サービス手数料収入	—	—	3,451,458	3,451,458
顧客との契約から生じる 収益	4,731,566	349,817	3,451,458	8,532,842
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,731,566	349,817	3,451,458	8,532,842

当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			
	ネット型 リユース 事業	メディア 事業	モバイル 通信事業	計
総合リユース	4,627,374	—	—	4,627,374
マシナリー(農機具・建機)	1,510,107	—	—	1,510,107
成果報酬型広告収入	—	482,949	—	482,949
通信サービス手数料収入	—	—	4,542,722	4,542,722
顧客との契約から生じる 収益	6,137,482	482,949	4,542,722	11,163,154
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,137,482	482,949	4,542,722	11,163,154

## (重要な後発事象)

## (投資有価証券売却について)

当社は、2023年5月14日付で株式譲渡契約を締結し、当社の保有する投資有価証券の一部を売却することと致しました。これにより、2023年6月期第4四半期連結会計期間に投資有価証券売却益（特別利益）を計上いたします。

## 1. 投資有価証券売却の理由

今後の事業成長に向けた財務体質の強化及び保有資産の効率化

## 2. 投資有価証券売却の内容

## (1) 売却する投資有価証券の内容

当社保有の未上場有価証券 1 銘柄

## (2) 売却予定日

2023年5月から6月末までの間

## (3) 投資有価証券売却益

約3億円（見込み）